



なぜ、システム開発は必ずモメるのか？

49のトラブルから学ぶ
プロジェクト管理術

細川義洋 著

ISBN: 978-4534051158

日本実業出版社刊

A5判・278頁

定価 2,000円 (税抜)

2013年9月刊

失敗を繰り返さないように学習しましょう

本書はソフトウェア開発現場での経験を有し、かつ、東京地方裁判所、東京高等裁判所のIT専門委員として多くの裁判事例にかかわってきた著者の経験に基づいて書かれている。

いろんな統計があり、そのコンテキストと共に語らなければ正確に現状を表すことはできないかと思うが、中規模サイズのソフトウェア開発プロジェクトの約7割が失敗するという産業界は異常であり、それにかかわるエンジニア及び管理者は本当にプロフェッショナルな仕事をしているのかと考える必要がある。更に、その失敗に対していかなる社会的、経済的判断が下されるのかも考える必要があろう。本書の読み方には種々あると思うが、今一度トラブルの予防策を考え、同様の失敗を繰り返さないように学習するには格好のものとする。

「はじめに」において、「オーダーメイドのシステム開発契約では、ベンダのみでシステムを完成させることはできない」という裁判官の実際の発言から始まる本書は、ともしれば堅くなりがちな裁判所における想定やりとりを軽妙な会話の中に取り入れることにより読みやすいものになっている。ただ、語り口が自分の環境と合わない読者は違和感を覚えるかもしれない。

開発ライフサイクルに従い、各ステージで押さえておくことが期待される事項についてのチェックリストが準備されており、これは参考になるであろう。また、本書の各所で裁判所がどう判断したかという判例が紹介されており、プロジェクト管理上の留意点として非常に参考になるであろう。

(新谷 勝利)

システム科学技術で日本を再興しよう！

かつてNHKで日本の電子技術を謳歌した電子立国日本の特集やプロジェクトXが家庭や職場で話題にされた。その後、国際競争力は大きく低下した。今、日本再興に向けた成長戦略が、実施・展開されている。

本書は、「ものづくり敗戦『匠の呪縛』が日本を衰退させる」の著者、東大名誉教授木村英紀氏編著による技術思考の解説書であり、技術立国ニッポンの復活の鍵として“システム科学技術”の重要性が主張されている。

本書の要旨は主に下記である。

- ・ システム技術の事例紹介：電力系統システム、ボーイング777、KOMTRAX、ハイブリッド車、ロボット技術、交通チケットシステムなどの事例を通じたシステム技術の解説。
- ・ システム科学・技術とシステム構築：システム構築の強力なツール

であるITとシステム化は別物であり、システム化の能力とソフトウェアの開発力の双方がうまく機能することで時代のドライビング・フォースになることの解説。

- ・ 技術政策と日本の課題：巨人IBMの変身を例に挙げ、“ものづくり基本法”が、要素技術に注力しすぎていることや、システム技術をベースにした技術社会システムの構築の必要性。

文豪、夏目漱石が追及したテーマは“則天去私（天二則り、私ヲ去ル）”と言われている。世界では、インダストリー4.0などの動きが活発である。戦後経済を支えたものづくりへの思い込み（“私”）を捨て去り、時代が求める“技術思考”に脱皮すべき時期に来ている。本書はそのような思いを抱かせる“技術思考”への入門書でもある。

(久保 忠伴)



世界を動かす技術思考 要素からシステムへ

木村英紀 編著

ISBN: 978-4062579186

講談社（ブルーバックス）刊

新書判・206頁

定価 860円 (税抜)

2015年5月20日刊